

環境保全

～ ISO26000 7つの中核課題:環境 ～



▶ 基本的な考え方

環境保全について、事業活動に伴い、大気、水、土壌に排出されるすべての化学物質の排出量ならびに廃棄物の発生量を継続的に低減させることは、化学メーカーの重要な責務と捉えております。自主的に、すべてのステークホルダーの皆様の環境・安全・健康の向上を図るため、レスポンシブル・ケア(RC)基本理念に基づき環境マネジメントシステム(EMS)を構築し、継続的な改善に取り組んでおります。

その取り組みの一つとして、2001年12月にISO14001認証を取得しました。ISO14001マネジメントシステムを環境保全の手法(ツール)として環境負荷低減に取り組んでおります。

▶ 省エネルギー・省資源の推進



限りある資源を有効に利用するため、全社で省エネルギーを推進しております。各工場では、プロセスの管理値最適化、省エネルギー機器の積極的導入をはじめとし、蒸気の回収再利用、蒸気配管の効率化などを実施し、燃料・電気使用量の削減を推進することで、エネルギー原単位として5ヵ年平均で年率1%削減を目標としておりますが、2019年度は0.1%増加で未達となっており、さらなる対策が喫緊の課題となっております。

▶ マテリアルフロー



環境・安全・品質

Voice



保土谷アグロテック株式会社
原田 靖之

環境に配慮した製品の開発

農薬は、雑草や病害虫を防除するために使用者が安全に使用でき、散布した農薬が水産動植物を含む周辺環境へ与える影響が小さい製品開発が非常に重要な課題となります。製品の製剤処方、使用器具を工夫することで、水産動植物への影響を抑える、ヒトの暴露、周辺への飛散を減少させることが可能となります。

近年、使用する農薬に独自の安全性基準を設ける「インフラ・交通関連」の企業もあり、農薬の使用注意事項表記に水産動植物に影響を及ぼすおそれがある旨が記載されている製品の使用を禁止しているところもあります。現在、日本で販売されているほとんどの「除草剤」はこの注意事項が記載されていますが、私たちは有効成分とその配合量、製剤処方を工夫することで、水産動植物への影響を抑え、高い効果を発揮する「除草剤」を開発し、販売を開始しました。今後も安全性、環境を意識し、製品開発に取り組んでいきたいと思っております。

▶ 脱炭素社会に向けた取り組み



2019年度のGHG(エネルギー起源CO₂)の排出量は、エネルギー使用量の減少により、対2018年度比で減少しましたが、直近5年間の変化量では増加しております。

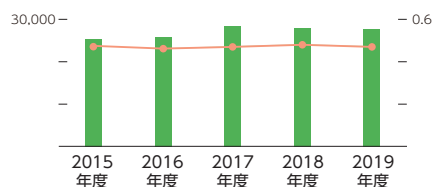
今後、生産量増加が見込まれる中、COP21目標達成に向け、エネルギー原単位改善に向けた省エネルギー機器の導入推進、再生可能エネルギーなど、GHG排出量削減に関する技術・費用の調査を行い、排出削減に努めてまいります。

▶ 大気汚染防止

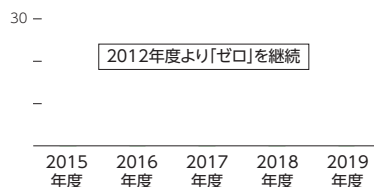


工場で使用する原燃料の都市ガス化を推進し、2011年度で切り替えを完了させたことにより、SOx(硫黄酸化物)排出量は2012年度より「ゼロ」を継続しております。また、NOx(窒素酸化物)排出量についても、大幅な削減を達成しております。

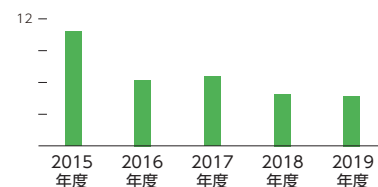
■ エネルギー使用量 (単位:KL)
— エネルギー原単位 (単位:KL/t)



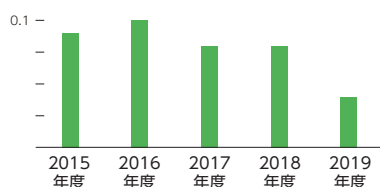
■ SOx(硫黄酸化物)排出量 (単位:t)



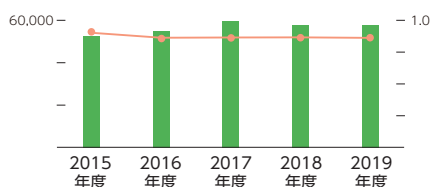
■ NOx(窒素酸化物)排出量 (単位:t)



■ ばいじん排出量 (単位:t)



■ CO₂(二酸化炭素)排出量 (単位:t)
— CO₂排出原単位 (単位:t/t)

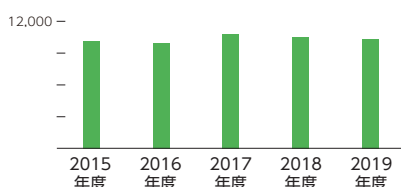


▶ 水質汚濁防止

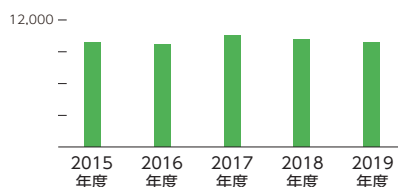


製造工程から排出される排水は、工場内の排水処理施設で高度処理し、排水規制値をクリアした後に、公共水域に排出されます。今後も、水質の向上に努め、海や河川への環境影響リスクを低減してまいります。

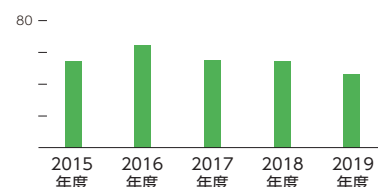
■ 水使用量 (単位:千t)



■ 水排出量 (単位:千t)



■ COD(化学的酸素要求量)排出量 (単位:t)



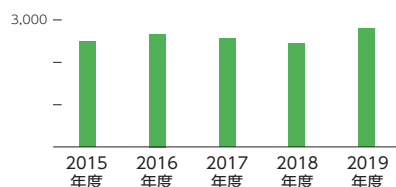
過去10年のデータは以下のURLもしくはQRコードからご覧いただけます。
https://www.hodogaya.co.jp/csr/eco/environmental_data/



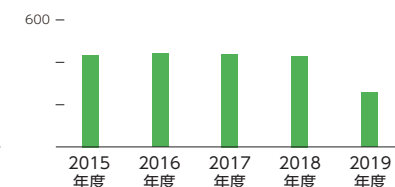
▶ 産業廃棄物の削減、再資源化の促進

産業廃棄物発生量の削減目標値を「対前年度発生量以下」とし、RC年度計画に盛り込み各事業所で個別目標値を設定し活動しております。2019年度の総排出量は、生産品目構成差により対前年比12%の増加となり、目標値未達となりました。一方、最終処分量については、再資源化の推進等により、対前年度比40%減少しております。今後も、小さな改善を積み上げ3R（リデュース・リユース・リサイクル）を推進し、発生量削減に努めてまいります。

■ 産業廃棄物発生量 (単位:t)



■ 産業廃棄物最終処分量 (単位:t)



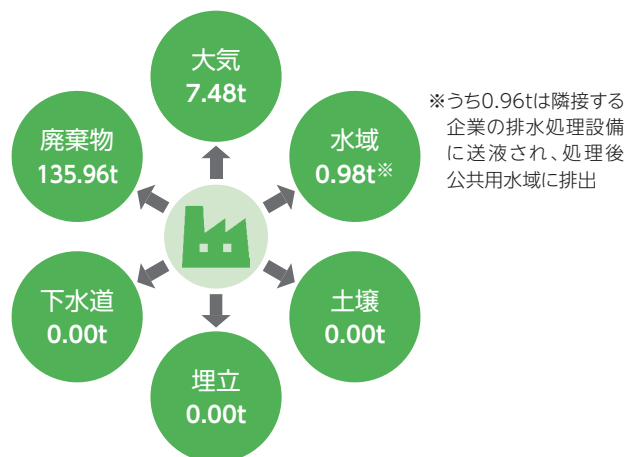
▶ PRTR※(環境汚染物質排出移動登録)

化学物質の環境負荷低減を図るため、化学物質管理促進法に基づきPRTR対象物質の排出・移動状況の把握を実施、国への届出を行っております。

これにより、保土谷化学で製造・使用している化学物質の環境への排出や、廃棄物としての移動などの実態を把握し、環境保全の観点から対象物質の排出量・移動量の削減に努めてまいります。

※PRTR:Pollutant Release Transfer Register

■ 2019年度PRTR対象物質排出量・移動量



政令指定 番号	物質名称	2019年度実績(全社集計):単位t					
		排出量			移動量		
		大気	水域	土壌	埋立	下水道	廃棄物
8	アクリル酸メチル	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.90
53	エチルベンゼン	0.44	0.15	0.00	0.00	0.00	8.99
80	キシレン	0.44	0.15	0.00	0.00	0.00	8.59
87	クロム及び三価クロム化合物	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.83
160	3,3'-ジクロロ-4,4'-ジアミノジフェニルメタン	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.14
181	ジクロロベンゼン	0.14	0.39	0.00	0.00	0.00	29.59
232	N,N-ジメチルホルムアミド	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4.70
296	1,2,4-トリメチルベンゼン	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.03
298	トリレンジイソシアネート	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.68
300	トルエン	6.26	0.00	0.00	0.00	0.00	72.40
355	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.89
411	ホルムアルデヒド	0.18	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
415	メタクリル酸	0.00	0.27	0.00	0.00	0.00	3.34
446	4,4'-メチレンジアニリン	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.90
453	モリブデン及びその化合物	0.01	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00
総合計		7.48	0.98	0.00	0.00	0.00	135.96



詳細は以下のURLもしくはQRコードからご覧いただけます。

https://www.hodogaya.co.jp/csr/eco/environmental_data#a21



Voice



郡山工場
佐藤 俊

川の生き物にやさしい排水を目指して

私は、水質関連の公害防止管理者として、各製造工程排水や総合排水の分析値の解析、水質の品質監視、公庁等への届出業務等を行っています。

郡山工場で製造している「過酸化水素、過酸化水素誘導品」、複写機に使用される「電荷制御剤、有機光導電体」、「アルミ着色染料」等の製造工程排水は、総合排水処理施設で処理し、郡山市を流れる阿武隈川水系の一級河川逢瀬川(おうせがわ)に放流しています。そのため、法定排水基準値よりも厳しい基準を設けて、監視・測定を行い、わずかな変化でも、直ぐに関係部署へ連絡、相談し、原因の究明と改善対策を検討、実施しています。

これからも工場一丸となって、逢瀬川のコイやヤゴたちが安心して棲めるよう、排水の品質維持・向上に取り組んでいきます。